

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

大崎農業改良普及センター

実施月日：令和2年9月8日

実施場所：大崎市古川現地ほ場

大崎合同庁舎501会議室

(単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
1	プロジェクト課題の個別検討 課題No.4「大崎園芸を牽引するなすの技術革新による生産性向上」
2	令和2年度プロジェクト課題について 課題No.1「中山間集落の活性化を支える地域営農体制の構築」 課題No.2「地域特産物への安定供給に向けた大豆の生産性向上」 課題No.3「新規就農した和牛繁殖農家の飼養管理技術向上及び経営安定化」

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
プロジェクト課題の個別検討について	4.3	<ul style="list-style-type: none">地域主要作物のなすをテーマにしたことは、JAも含め皆が感心を持ち改善していけるので設定が良い。次年度も関係機関と連携し収量向上に向けて取り組んでいただきたい。経験に頼らずデータに基づく環境測定値を基準にしていることは、青年就農への支援に繋がるので是非、今後も普及してほしい。環境制御機械の導入も、園芸特産事業で対象にして導入を進めてもらいたい。収量確保のための積極的な取組は素晴らしい。環境測定器の実際を視察でき良く分かった。	<ul style="list-style-type: none">次年度も継続課題として取り組む予定です。今後も継続してデータを収集し、スマート農業の普及拡大に努めます。園芸特産重点強化整備事業は、平成31年度から一部を改正し、高品質安定生産機械装置に組み入れております。広く情報提供し普及拡大に努めます。

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和2年度プロジェクト課題について	3.9	<p>No.1関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間集落の課題は，今後は組合自体が関心を持つことを重点的に推進することで，継続発展すると思う。 <p>No.2関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆生産振興にはJ Aの関わりが重要で，積極的にJ Aが参画することで，この課題で得られた技術体系を今後の品質安定に活かすべきと考える。 ・大豆はブロックローテーションが基本であるが，連作しなければならない場合もあり，連作での難防除雑草対策や栽培技術の普及拡大に期待する。 <p>No.3関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産での新規就農支援は，飼養技術を安定させるため重要であり引き続き指導をお願いします。 ・畜産の課題は大崎だけと聞いた。非常に嬉しく思う。 <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題が明確になっているので，具体的活動をスムーズに進めてほしい。 ・3課題とも意欲的に取り組まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・J Aと連携し加工者との意見交換や現地検討などJ A主催としていただきました。また，難防除雑草の防除体系についてもJ Aの農薬注文書に入れてもらえました。 ・ブロックローテーションによる輪作が生産性を高めるための最良の対策であり，実現できるよう地域での協議を進めていきます。また，試験場と連携し普及に移せる技術として確立できるよう努めます。 ・畜産も含め新規就農者の営農計画実現へ向けた支援は重点的活動と位置づけ，青年農業者の目標達成に向けた課題に引き続き取り組んでいきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・現場が求める課題を把握し，効率的な普及活動を目指します。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・今後，中山間地域でのスマート農業技術の導入実証により，普及していくことも大事だと思う。（草刈りラジコン，ドローン農薬散布，ドローン撮影による食味分析，鳥獣害対策のICT活用，繁殖牛のICT活用等） ・新型コロナウイルス感染症がある環境の中で，普及活動も制限され大変かと思うが，今後も支援，指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年から加美町の雷地区で中山間地域のスマート農業実証事業により，水稻採種でアシスト田植機，自動操舵除草機，ドローン，収量コンバイン等が導入されています。また，労働力不足解消として園芸経営で加美町の（株）宮城フラワーパートナーズに自動走行収穫台車が導入され試験を行っています。今後も関係機関との連携を強化し，共通の目的に向かって普及拡大していきます。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する